

古墳とは

九州の新原・奴山古墳群は、宗像氏の主要な人々の墓であり、沖ノ島の世界遺産の一部となっています。5世紀から6世紀にかけて造営された41基の古墳は、福岡市北部の田畑に囲まれた海岸に近い田園地帯に集まっています。古墳からは、福岡県北部と佐賀県の間広がる玄界灘や大島と沖ノ島の方向を望むことができます。

これらの土の墓は、円墳や前方後円墳として造られ、多くの場合は堀に囲まれています。新原・奴山古墳群の中では5基の前方後円墳を見つけることができます。これらの古墳の内部空間からは、沖ノ島で発見されたものと同様に金属製の道具や奉獻品などが出土しています。古墳の内部は一般公開されていませんが、墳丘の周囲を歩くことは可能です。それらは、奴山口バス停から悠々と散歩するのに十分なほど近くに(800m 広がり)あります。